

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

11

No.741

特集……P2

「ストップ・ザ・無縁社会」

絆つなげる 明日へつながる⑤

認め合い、共につながる仕組みづくり

「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ!全県キャンペーン……P6

みんなで作るひょうごの福祉……P7

地域のニーズ把握から新たなサービスの事業化へ

～社会福祉法人かがやき神戸「ミニなでしこ」の取り組みから～

まちとつながる・住民とつながる! 企業・NPOの地域づくりリポート……P8

ひとり暮らしの高齢者に届ける「福祉の寿司」

地域とともに高齢社会を支える 一株式会社 森重一

地域を駆ける!ワーカー物語……P9

地域の中で応援してくれる人をたくさん増やしていきたい

社会福祉法人阪神福祉事業団

ななくさ清光園 西田 充宏さん

県社協ニュース……P10

みんなの広場……P11

11月は
児童虐待防止
推進月間だよ

三木市



「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる⑤ 認め合い、共につながる仕組みづくり



現在、日本の全世帯の3割以上はいわゆる“一人暮らし”の単独世帯だ。長引く経済不況とも相まって、さまざまな理由から生きづらさを抱え、家族や地域での支援も得られずに孤立する人が増加している。

今回の特集では、相談窓口の現状やセルフヘルプグループの活動事例を通して、生きづらさを抱えた当事者の尊厳を守る地域社会づくりの意義や方策を考える。

相談窓口の現状から 浮かび上がる さまざまな生活課題

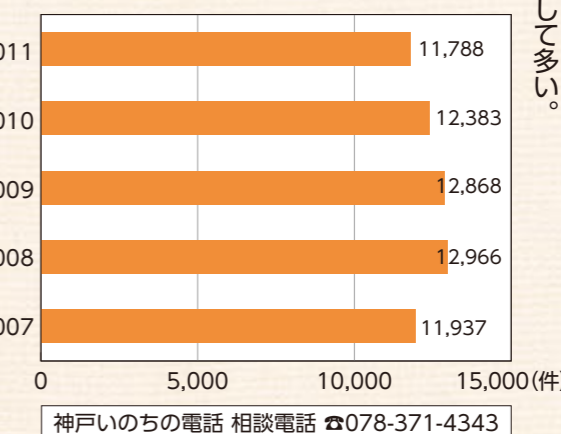
「何日かぶりに人と話をした」「不安な気持ちを聞いてほしい」「いこの電話には、毎日、幅広い世代からさまざまな相談が入る。」家族も知り合いもなく孤立している方からの電話はもろろん、ちよとした不安や悩みを周囲の人に相談できない方が、年齢に関わらず増えているように感じる」と神戸いこの電話事務局長の正岡茂明さんは話す。

「いこの電話」は、命に関わる深刻な相談を受け付ける窓口というイメージがあるが、実際には、生活に困難な課題を抱えながらも、誰にも相談できず独りで悩んでいる人からの電話相談も多い。

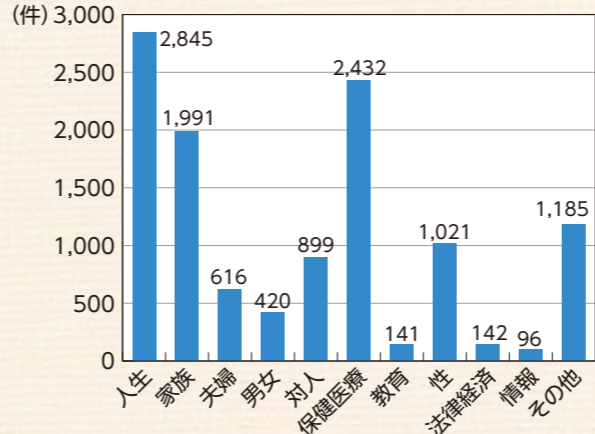
具体的には、障害や難病、就労支援、いじめなどに関する電話にも対応している。最近では、定年後に会社から離れて、社縁が切れたことによる、年金暮らしや一人暮らしへの不安、周囲の人が亡くなって感じる孤独などについての相談も増えて

いるという。課題に対応した専門の相談機関や電話相談窓口もできつつあるが、「いこの電話」への相談件数は依然とつづき多。

■図表1 「神戸いこの電話」年間総受付件数



■図表2 「神戸いこの電話」問題別受付件数(2011年度)



同じ課題を抱える 人たちのつながる場

社会的に孤立している人の多くは、生きづらさを抱えながらも、相談先につながらず、独りで悩んでいる場合が多い。特に、障害や難病、介護等の課題を抱えた人たちの多くが、必要な支援やサービスに辿り着くのは容易でない。認知症などで判断能力が低下した方や一人暮らしの方の場合は深刻だ。

そのように悩んだり、孤立しやすい人たちが自らつながれる居場所のひとつとして、各地域で作られているのが、セルフヘルプグループ(以下、「SHG」と呼ばれるものだ。

SHGは、図表

3のようによまぎまな生きづらさを抱えた当事者や家族で構成されており、多様なグループが存在している。SHGは、生きづらさを抱えた当事者同士

■図表3 セルフヘルプグループの例

- 心身に病気や障害のある人たち
- アルコールや薬物の依存症の人たち
- 大切な人の喪失を体験した人たち
- 人間関係や社会との関係に悩む人たち



地域にはさまざまなSHGが存在している(ひょうごセルフヘルプ支援センター10周年記念事業の様子)

が集まり、自分の気持ちを表現して仲間と分かち合い、情報交換ができる場だ。同じ課題を抱えた仲間と話すことは、「悩んでいるのは自分ひとりじゃない」という安心感につながる。また、安心できる環境で自分の気持ちを表現することで、「ありのままの自分でいいんだ」という自己肯定につながる効果も大きい。

SHGの結成にあたっては、本人や家族だけでなく、さまざまな相談窓口や、社協、保健所、地域包括支援センター、民生委員などの支援を得て、当事者同士の交流や、周囲の理解を広げていきながら立ち上げに至ったグループも多い。

今回は、以上のようなSHGから、二つの事例を紹介したい。

事例1

気持ちを分かってくれる場所 「ひよこの会」(宝塚市)

Aさんは夫が62歳で認知症の診断を受ける前から、「なにか様子がおかしい」という不安を抱えながら生活をしてきた。

夫は定年前から、物忘れや理解力の低下などを感じながらも、「俺のどこが悪いんだ」と受診を拒否してきた。やっと大病院を受診し、認知症の薬が処方されるようになった。本人への告知はできなかつた」とAさんは当時を振り返る。徐々に、食事や排せつなどでできないことが増え、夫がぶつくてくる不安やいら立ちを独りで受け止め続けたが、誰にも相談できなかった。「家にいても、家の周りを散歩していても、夫の認知症が分からないように、いつも鎧を着けているように気を張り詰めていた」とAさんは語る。

医師の薦めで、市役所へ相談に行ったが、若年性認知症※にきちんと対応してくれる窓口はなく、

右往左往するしかなかった。Aさんは、独りで介護を続けた。「介護保険は65歳からしか使えないと思っていたので、自分たちが使える制度だと思わなかつた」とAさん。

その後、ようやく福祉関係者とながり、若年認知症支援連絡会「ひよこの会」を知った。他の家族が自分の気持ちをオープンに話す雰囲気、「ここは自分の気持ちを分かってくれる場所だ」と感じ、胸の内を夢中で話していた。

ひよこの会で旅行やサロンなど活動に参加する中で、夫に「つらい気持ちを誰にも話せず、ずっと独りで苦しんでいた」と打ち明けた。それを聞いた夫は絞り出すような声で、「そんなに苦しんでいたなんて知らなかつた」と驚いたという。

「自分の気持ちを話すことだけでは、問題は解決しないかもしれないが、同じような立場の人と気持ちを分かちあうことで、だいぶ気持ちが楽になる。同じ悩みを抱えている人にはぜひ参加してほしい」とAさん。現在、夫は在宅生活が困難に



なり、施設に入所した。Aさんは今も夫を支えながら、自分の支えとなってくれた「ひよこの会」のサポーターとして、他の若年性認知症の家族の支援をしている。

ひよこの会事務局を担う宝塚市社会福祉協議会の徳田典子さんは「若年性認知症は、発症年齢と認知症が結びつかないために周囲の理解を得られず、本人や家族は偏見や無理解に傷つくことが多い。病気の正しい理解を広げていく必要がある」と話す。

ひよこの会では、Aさんのようにどこに相談していいかわからず、孤立する状態に置かれる人が出ないように、市へ若年性認知症の相談窓口を住民に分かりやすく示してほしいと発信している。

※若年性認知症：65歳未満で発症する認知症の総称。発症時期が就労時期と重なるため、失業など経済的困難を伴うことがある。また、周囲の理解を得にくいことから、本人や家族は誰にも相談できず孤立し、抱えている諸問題が解決しないままになることもある。

共感して受け止めることの重要性

障害や難病、多胎児の親、不登校、介護者家族等、抱えている生きづらさは違っているが、SHGは、地域の中で自分らしさを発揮できる自己実現の場となっている。

兵庫県内でさまざまなSHG同士の交流やネットワーク化を進めている「ひよこ」セルフヘルプ支援センター（P11参照）代表の中田智恵海さんも、「多くの場合、SHGは生活課題を抱え、利用できる社会サービスもなく孤立した人たちで構成されている。SHGは仲間同士だけでなく、地域社会に向かって、自分たちの生きづらさを理解してほしい」と発信してきた」と強調する。

前述の「いのちの電話」では、専門相談と異なり、「その話は聞かぬが、この話は他に相談してください」というような振り分けをしない。自分の生き方に対する悩み、うつ病など心の病に関する悩み、日常の小さな悩みや漠然とした不安など、専門的な相談機関には話せないような相談も多い。「話を聴くことだけでは相

事例2

当事者・家族の社会参加を支える

「ひまわりの家」(六栗市)

六栗市山崎町にある「ひまわりの家」は、地域の民家の一部を改装した、高次脳機能障害※のある本人と家族が運営するカフェと雑貨のお店だ。

「ひまわりの家」を立ち上げた経緯について、理事長の佐原美津子さんは、夫が障害を抱え数多くの苦労をした経験を踏まえて話す。「高次脳機能障害の人は、身体が健康に見えるため外見から障害の存在が分かりにくい。また、障害特性を踏まえた支援方法がまだまだ手探りの状況にあり、既存の介護保険や障害福祉サービスでは対応できないこともある。まずは障害を多くの人に理解してもらうことが重要。本人や家族、地域がつながれる場、そして本人がもつ力を発揮できる場を作りたかった」

接客を担当するBさんは、「私は、新しい物事を記憶することが難し



店内では自閉症の方の個展も開催中!

カフェでは当事者の方が美味しいコーヒーを入れてくれます

い。33歳になるけれども、自分の時間は交通事故に遭った18歳で止まっている」と話す。「友人は社会人になり、家庭を持ち、子どもができたが、自分だけ社会の流れから取り残されている。この感覚、寂しさは誰にも分かってもらえない」。また、「ひまわりの家で仕事や対人関係の経験を積み重ね、将来は会社で働きたい」と次のステップへの希望も語る。

Bさんの母親も、「少し前までは、高次脳機能障害の認知度が低く、専門的な相談窓口も数えるほどで

孤独を感じるがあった」と過去を振り返る。「今は生活上の悩みを相談し、福祉サービスの利用や医療に関する情報を交換できる仲間がいることは心強いし、ひとりぼっちではない安心感がある」

ボランティアの女性も地域の理解の重要性を語る。「縁があつて運営に関わるまでは、高次脳機能障害について全く知らなかった。一緒に過ごす中で理解が深まるし、少しの配慮があれば本人も普通に活動できる。地域の人たちが福祉施設との調整役を担うこともある」

このように「ひまわりの家」は、障害のある本人と家族同士がつながる場であると同時に、地域の方々との交流を通じて障害の理解を促し、社会とのつながりを広げる役割を果たしている。

※高次脳機能障害：事故や病気で脳が傷つくことにより、記憶力や判断力、注意力、集中力が低下するほか、感情のコントロールや人間関係づくりが難しくなる障害の総称。

談者の抱えている問題の解決は難しい。ただ、相談者は話すことで、自身の状況を整理し客観的に見ることがつながらる。相談員が、相談者への鏡のような役割を担えればというののが、「いのちの電話」での相談姿勢だ。

すべての問題に根本的な解決方法がある訳ではない。治療法が見つからない難病、先が見えない生活不安など、専門家に聞いても解決しないことは多い。しかし、解決方法がなくても、誰かに話して共感して受け止めてもらうことは、自分の存在を見つめ直し、自分自身を肯定するきっかけにもなる。

みんなが認め合い、尊厳が守られる地域社会づくり

「無縁社会」という言葉に象徴されるように、人と人とのつながりが希薄になる中、現行の制度や社会システムだけで解決できないさまざまな問題が表面化している。これらの問題を乗り越えるためには、みんなが認め合い、尊厳が守られる地域社会づくりに向けた取り組みが求められる。

(1) どんな相談者にも対応可能な相談窓口を整備する

さまざまな地域資源を活用し、困っている人を選別せずに総合的に支援できる相談窓口の設置と専門職の配置

(2) 既存の福祉施策を強化し、多様な「自立」のかたちを認める

就労支援にとどまらない生活支援福祉就労、社会的企業など多様な社会参加の機会の充実

(3) 当事者のニーズから支援体制を構築する

現在あるサービスに当事者を当てはめるのではない、当事者のニーズに足場を置いた支援

障害の有無や年齢、性別、価値観などの違いを認め合いながら、誰もが同じ人として関わり、支



誰もが認め合い、支え合える地域社会を（「ひよこの会」の活動風景から）

まず基本となるのは、虐待や社会参加の機会の剥奪などの権利侵害からの保護や、衣食住などの生活する上での基本的ニーズの充足といった権利擁護の取り組みだ。その上で、福祉・医療・司法関係者などの連携による以下のような体制づくりが重要となる。

誰もが困った時に「助けてほしい」と言える社会、そして、その声を本気で受けとめることができる「支え合い社会」づくりに向けた仕組みが、今求められている。



社会福祉法人かがやき神戸では、心の病とともに生きる人たちが自分らしい地域生活を送ることができるよう、軽作業や食事作り等を行う「ミニなでしこ(就労継続支援事業B型)」(神戸市西区)を運営しているよ。今回、新たに配食サービスの実施が決まったんだって。



みんなでつくるひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

一人暮らしの障害者の食生活は…

「ミニなでしこ」では現在、利用者の約6割が一人で生活を送っている。ある日、職員が一人暮らしの利用者宅を訪れた時、冷蔵庫の中が空であったり、レトルトカレーが山積みになっている実態を目の当たりにした。毎日食事のことを考えることがしんどかったり、金銭管理ができず食費を削ったりして、偏った食生活から疾患を患い、精神症状が悪化するケースも少なくない。そんな人々に対する生活支援の一つとして考えられたのが、配食サービスだ。

ニーズを把握して事業所を移転

サービスの立ち上げにあたって、平成21年より同じ西区内に開設した「自立訓練いちのさん」を運営していく中で、その地域に多くの障害者が単身で暮らしており、配食サービスの潜在的なニーズがあることが新たに分かった。同法人では以前より、障害のある人たちの思いに応える事業を展開

地域のニーズ把握から新たなサービスの事業化へ

～社会福祉法人かがやき神戸「ミニなでしこ」の取り組みから～

しようにと将来構想を策定していた。今回のニーズに対応することは、まさにこの構想の実現につながるものである。そこで、「ミニなでしこ」自体がこの地域へ移転し、包括的支援の一つとして配食事業を立ち上げて地域の障害者への生活支援を行っていくことが決定された。



新たな事業所で、将来構想の実現に向けた配食事業を展開

配食サービスから生まれる可能性

現在、来年1月からの本格実施に向け、週に一度試行的に弁当を作っているが、この弁当を食べたある一人暮らしの利用者は、「今晩は何を食べようかと考えなくて済むだけで随分と気が楽になった」と感想を

取材を終えて

弁当を戸配することにより声のかけあえる新たなつながりを築くことができ、また、孤立しがちな人々を支えることもできるこの事業に地域づくりの大きな可能性を感じました。

社会福祉法人かがやき神戸
多機能型 ミニなでしこ
(神戸市西区平野町福中宇道バタ22-1)
※12月に同区王塚台へ移転予定
☎078-961-5174

10月号の「グリーンハイツ地区成年後見センター」は、川西市内で活動しているNPO法人ですが、市町名の記載が洩れておりましたので、謹んでお詫び申し上げ、右記により改めて掲載させていただきます。所在地:川西市緑台6-1-85

「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

メッセージ

地域の実態把握から「無縁社会」に歯止めを

急速に進む少子高齢化、雇用・家族形態の変化は人口の減少を招き、山間部では限界集落が増加し、集落の運営ができなくなっている。さらに、価値観の多様化とライフスタイルの変化により、世間の煩わしさから逃れ、孤独を好む人も少なくない。無縁社会といってもその実態はさまざまである。

そこで朝来市社協では、地域の実態と課題を把握するため、小学校区を担当する「地域支援員」を配置し、各地区の役員、民生委員とともに活動している。

また市社協では、高齢者のふれあいを図るため「地域交流拠点とまり木サロン」を開設した。飲み物はすべて100円で、毎日30～40人の利用が絶えない。木曜日には近隣農家の協力を得て新鮮な野菜を販売する朝市も開催。遠くに買物に行けない高齢者など多くの利用者でにぎわっており、地域社会からの孤立化を

防ぐ大切な場所となっている。

さらに、各地区の公民館や空き民家を利用し、民生委員やボランティアの協力による「ふれあいいきいきサロン」を推進し、高齢者のいこいの場所として広がりつつある。これに加えて、安否確認を兼ねた「配食サービス」も行っているが、これだけでは無縁化を防ぐことはできない。

公的制度の見直しや早急な支援体制の整備と地域内の住民同士によるつながりを大切にしたい自主的な取り組みが、無縁化・孤立化の歯止めにつながると思っている。



朝来市社会福祉協議会 会長
(市町社協活動推進協議会 前会長)
戸田 幸男さん

TOPICS

キャンペーンの推進団体が増えました!

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会の推進団体として、このたび新たに下記の団体より参画の申し出をいただきました。これにより、推進団体は計170団体(9月30日現在)となりました。

推進協議会では、引き続き推進団体を募集しています。参画の申し出は、事務局(兵庫県社協、☎078-242-4634)までご一報ください!

新たに参画した団体(順不同)

姫路消費生活研究会、二水会、ひょうご県友会、社団法人兵庫県民間病院協会、兵庫県病院協会、神戸掖済会病院、特定非営利活動法人フードバンク関西、公益財団法人日本公衆電話会兵庫県支部、兵庫県聴力言語障害者連合会、特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会

FacebookやTwitterでも情報発信中!

全県キャンペーンでは、専用ホームページのほか、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)と呼ばれるFacebook(フェイスブック)やTwitter(ツイッター)のページを開設し、最新情報や皆さんからのメッセージなどを随時発信しています。ぜひ一度ご覧ください!

Facebook

<http://www.facebook.com/stopthemuensyakai>

Twitter

https://twitter.com/stop_muen



「ストップ・ザ・無縁社会」の輪を、インターネットでも広げましょう!

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

印象に残る
エピソードは？

コーディネーターに配属されて間もなく、学校が休みの間に子育てと介護に追われ、子どもに何をしてもまうか分からない「話を聞いてもら

子どもの頃から身近に寝たきりの方がいたり、高校時代に子どもや視覚障害のある方と一緒にキャンプや山登りをした経験が、福祉を考える機会となり、この道に進むきっかけになりました。知的障害者施設に就職後の新たな転機は、地域で生活する障害のある方々の相談支援を行うコーディネーターに配属されたことです。それ以前も、施設の利用者が地域で生活できるようにサポートしてききましたが、この配属を機に、地域を大きく意識し始めました。

あなたの原点は？

地域を駆ける！
ワーカー物語

地域の中で応援してくれる人を たくさん増やしていきたい

えただけで気持ちが楽になった」というお母さん方に出会いました。それをきっかけに、音楽療法の「満天の会」やサマースクールを企画して10年がたち、新たな協力を巻き込みながら、時いた種が花を咲かせるように大きく成長しているのが、うれしです。



音楽に合わせて全身でリズムを刻む（「満天の会」の様子）

力を入れたい活動は？

阪神間の数カ所の地域自立支援協議会※に参画しており、この中で

大切にしていることは？

地域で生活する障害者の思いや課題を発信し、「誰もが地域で自分らしく暮らす」ことを実現するための理解者や協力を増やしていきたいと思っています。福祉関係者だけではなく、就労、保健、医療、教育、司法などさまざまな関係者とのつながりづくり、今後も力を入れていきたいと思っています。

障害者を支援される対象と見るのではなく、「本人が主体であり主人公」であることを常に自分に言い聞かせています。だからこそ、支援者として「これでいいの」という迷いをもち続けることも大切だと思っています。ひとりの支援者の力では人の一生を支えられないからこそ、個々人に合わせたチームを地域内できつくり、つながることが欠かせないと感じています。

取材を終えて

障害のある方や家族が地域で安心して生活できるよう、障害についての理解者を地域の中に増やすために発信を続ける西田さん。本人を軸に地域のさまざまな機関とつながりをつくり、共に歩む支援者を増やしていく、ワーカーとしての信念が伝わってきました。

※障害者自立支援法に基づく障害福祉関係者の連携のための会議

社会福祉法人阪神福祉事業団
ななくさ清光園
にしだ みつひろ
西田 充宏さん

Personal History

- 23歳 社会福祉法人 阪神福祉事業団に就職
- ななくさ育成園で、地域移行や自閉症の方の支援に関わる
- 39歳 同法人のななくさ清光園で障害児(者)地域療育等支援事業のコーディネーターとして相談業務に関わる
- 43歳~ 同施設で障害者相談支援事業の相談支援専門員となる



まちとつながる・住民とつながる!

企業・NPOの地域づくりレポート

独り暮らしの高齢者に届ける「福祉の寿司」 地域とともに高齢社会を支える 株式会社森重

「毎月1回の「お寿司」無料サービス

ビジネスホテル レストラン割烹 森重では、20年ほど前から、太子町の独り暮らしの高齢者に毎月1回「お寿司」の無料サービスを行っている。「先代の社長が、実の親にできなかった親孝行のつもりで、両親の代わりに食べさせてあげたいという気持ちから始めたこと。その意志を継いで今も続けている。特別なことをしているわけではなく、仕事の一部としてやっている」と森田社長は話す。



「福祉の寿司」具材は季節によって変わる



利用者から届いた「感謝」の気持ち

お寿司の具材は季節によって変え、その時々に応じて従業員で考えている。万1の場合を考

えて、生ものはできるだけ使わず、夏場は休む。「酢めし」を使っているが、安全に十分気を配りながらできるだけ新鮮な状態で届けられるようにしている。従業員の間ではこれを「福祉の寿司」と名付けている。

高齢者は、毎月1回届けられるこのお寿司を楽しみにしており、中には感謝の気持ちとして、手づくりの爪楊枝入れを贈ってこられた方もいるほどだ。当初は50人程度だった届け先も年々増え、今では毎月90人前後、時には100人を超えたこともある。

「地域のボランティアとともに

この「お寿司」の無料サービスは、太子町社会福祉協議会が実施している友愛訪問と安否確認を目的とした給食サービスの利用者に対し、毎月第3木曜日に地区の民生委員とボランティアで夕食として配食をしている。

また、包装するカバ―は町内在住の中学生と高校生のボランティアグループ「フィルカ」によるあたたかい絵手紙になっており、利用者はこれも楽しみにしている。森重の従業員も季節に合



まごころのこもった手作りのカバ―

「と先代社長は話していた。今後も、特別負担になるようなことはしない。食べ物商売の中で、できることを「安全」を考えながら、皆が喜んでくれる限りこの「福祉の寿司」を作り続けていきたい」。そう語る森田社長の言葉は力強い。

った料理を作ることが難しい時もあるが、カバ―が季節感のある内容になっているので気持ちも高まる。「調理する人、配ってくれる人、そして食べてくださるお年寄り、たくさんの人のおかげで「寿司」が生きている」と先代社長は話していた。今後も、特別負担になるようなことはしない。食べ物商売の中で、できることを「安全」を考えながら、皆が喜んでくれる限りこの「福祉の寿司」を作り続けていきたい」。そう語る森田社長の言葉は力強い。

株式会社 森重
代表取締役 森田 義信
昭和40年設立
所在地 兵庫県揖保郡太子町蓮常寺35-1-1
TEL 079-1277-1115
FAX 079-1277-1161
<http://www.morisige.jp/>

社協ボランティア・市民活動センター連絡会議を開催！

ボランティア活動の課題を研究・協議

9月27日、標記会議を開催し、県内市区町村協ボランティアセンター担当者との参加により、社協ボランティアの重点的な取り組み課題について協議した。ボランティア・市民活動を取り巻く課題として、インフォーマルサービスとボランティアの関係「若者や障害者も活躍できるプログラムづくり」「高齢化や



今後のボランティアセンターはどうあるべきか？ 真剣議論中！

過疎化が進む地域でのボランティアセンターのあり方というテーマを協議し、壁を乗り越える方策について意見が交わされた。今後の会議でも、これらのテーマで継続して協議することが確認された。

被災地に寄り添うボランティアとは

午後からのプログラムでは、災害救援ボランティア活動支援関係団体や行政、一般ボランティアなども加わり、東北大学教授の村松淳司さんより、東日本大震災の国の統計データや大学独自の調査結果を基に当時の避難状況などについて講演いただいた。村松さんから「災害時に生死を分けるのは、『日頃の防災訓練に大人がどれだけ真剣に取り組んでいるか』ということ。大人の意識の高まりが子どもの意識の芽生えに影響する」といった話や「発災から1年半



村松さんによる講義「被災地に寄り添うボランティアとは」

が過ぎ、被災した辛い思いを受け止める傾聴ボランティアのニーズが高まっているとの提起があり、人が人として生きるための寄り添った支援の大切さが語られた。兵庫県からできる被災地支援のあり方や、災害を切り口にして住民同士の日頃の支え合いにどうつながっていくのかといった今後の活動を話し合う良い機会となった。

寄付について(お礼)

ひょうごボランティア基金へのご寄付(平成24年4月～9月)

ボランティア活動支援や友愛事業に大切に活用させていただきます。

ボランティア活動支援事業へ寄付いただいた団体 (寄付月日順・敬称略)

- 三宮センター街1丁目商店街 振興組合(神戸市中央区)
- 三宮センター街2丁目商店街 振興組合
- 三宮センター街3丁目商店街 振興組合
- 和興業(たつの市)
- 兵庫県茶道協会神戸市中央区
- 株式会社ヤナセ 神戸四国営業本部(神戸市東灘区)
- 株式会社サン測量設計(姫路市)
- 青少年を育てる会 指導部会(佐用町)
- 友愛事業へ寄付いただいた団体 (寄付月日順・敬称略)

教えることで自分も成長！ 新任職員OJT担当者研修を開催

県社協では、福祉職場での人材育成が進むよう、職場研修促進のためのフォーラムや手引きの発行を行ってきた。その結果、日々の仕事を通じて職員育成(OJT)への理解が深まり、これに取り組む施設が大幅に増えた一方で、現場でOJTを実践できる職員の育成が課題として明らかとなったため、今年度新たに「新任職員OJT担当者研修」を9月21日に開催したところ、県内各地より約1000



新任職員への配慮について熱心に議論



人参加があった。当日は、講師に関西福祉科学大学教授の津田耕一さんを招き、県社会福祉研修所が作成したハンドブック(写真)を用いて、職員一人ひとりの成長度合いに応じた育成ポイントを学んだ。講師からは特に、日常のあらゆる機会を意識的に活用することの大切さについて指摘があった。受講者も自身の経験を思い出し、「新任時代に先輩が、自分の何気ない疑問を深夜まで調べてくれていたことを後日知り、嬉しかった」といった熱心な議論が交わされた。また、教える側も仕事の意味や方法を見直す機会となるなど、新任職員とともに成長できるOJTの重要性が再確認された。

※OJT担当者のための新任職員育成ハンドブックは、県社会福祉研修所のホームページ(<http://hyogo-f-kensyu.jp/>)にも掲載しております。

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

特定非営利活動法人 ひょうごセルフヘルプ支援センター

セルフヘルプグループは解決の困難な課題を抱える人たちが悩みをひも解く糸口を見つけることを願って集まる仲間たちのグループです。人生の途上で突然襲われる自然災害、障害や難病、不登校やひきこもりなど、「こんな経験をしているのは私一人」と絶望することがあるでしょう。セルフヘルプグループでは、どんな時も自分らしく生き生きと生きることを目指して「お仲間同士がつながり」情報を交換しあって励まし支え合うとともに「社会にも理解を求め」る活動をしています。当センターはそんなグループについての情報提供をしたり、リーダーの研修や交流会を開いたりして応援しています。ぜひ、ご参加ください。



セルフヘルプグループリーダー研修の様子

こんな取り組みをしています

リーダー交流会

日時 平成24年11月12日(月) 13時30分～16時30分
場所 ひょうごボランティアプラザ セミナー室 (神戸市中央区川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6階)
参加費 資料代(200円)
※正会員(年会費3,000円支払い団体)には交通費実費を支給

高次脳機能障害リハビリテーション講習会

日時 平成24年12月1日(土) 13時～16時30分
場所 木口記念会館3階(芦屋市呉川町14-10)
内容 講演I 交通事故による高次脳機能障害の裁判について 弁護士 田中賢一氏
講演II 高次脳機能障害の検査について 医師 山口三千夫氏

テーマ別グループ相談会

①医療のこと ②裁判のこと ③就労のこと ④作業療法のこと
⑤日常生活 ⑥参加者おしゃべり交流会
などのテーマに分かれて開きます

いずれもお申込み・お問い合わせ先は左記連絡先まで

連絡先

特定非営利活動法人 ひょうごセルフヘルプ支援センター
〒658-0022 神戸市東灘区深江南町1-8-22-101
電話・ファックス (078) 452-3082
E-mail hyogosh@titan.ocn.ne.jp

アピールしたい活動の情報をお寄せください。

お問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの間合せ先にご確認ください。

公益財団法人 トヨタ財団
2012年度国内助成プログラム

地域の特性を踏まえつつ、課題解決に結びつくプロジェクトを対象に募集します。

①活動助成

対象 地域に生きる人々が主体となり、地域社会の再生・振興に向けて、「継ぐ」「つくる」「つなげる」というプロセスに基づき、対象地域の地域課題の解決に具体的に結びつく、持続的かつ意欲的な取り組みであることなど

助成金額 年間上限300万円程度(※2年間の場合は上限600万円程度)

②地域間連携助成

対象 ①の対象条件に加え、プロジェクトの実施主体に実績があり、活動の理念が明確であることなど

助成金額 上限1,000万円まで(1年間・2年間とも)

締切り ①②ともに平成24年11月19日(月) 消印有効(Webは17:00まで)

☎公益財団法人 トヨタ財団
TEL03-3344-1701

URL <http://www.toyotafound.or.jp/>

2012年度「連合・愛のキャンパ」助成

新たに始める、地域における「ふれあい・助け合い活動」に対して助成を行います。

対象 草の根型市民団体/グループ

助成金額 1団体上限15万円まで

締切り 平成24年11月26日(月)

☎公益財団法人 さわか福祉財団
TEL03-5470-7751

URL <http://www.sawayakazaidan.or.jp/>

公益財団法人
JR西日本あんしん社会財団
平成25年度公募助成(活動・研究)

心身のケア、防災、救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動・研究を助成します。

対象団体 近畿2府4県に拠点があり、募集開始時点において1年以上の継続活動実績がある団体。

(上記の条件を実質的に満たすものとして本財団が認める団体)

助成期間 平成25年4月1日から平成26年3月31日までの1年間に実施される活動(原則としてその期間内に完了すること)

助成金額 活動:1件5万円以上100万円以下、研究:1件200万円以下(総額3,500万円程度)

締切り 平成24年11月30日(金) 必着

☎公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団
TEL06-6375-3202

URL <http://www.jrw-relief-f.or.jp/>

研修・イベント

宅老所・グループホーム・ユニットケアのいまを考えるフォーラム「これからの地域ケアの課題を見据えて」

日時 平成24年11月23日(金・祝) 10:00~17:00

場所 姫路市花の北市民広場 大ホールほか
内容 特別講演「地域共生社会に期待すること」(厚労省社会・援護局長 村木厚子さん)、全体会、分科会など

参加費 会員2,000円(非会員2,500円/交流会費4,000円程度)※特別講演のみの参加は500円(公開講座)

定員 200人(要申込・先着順)

☎兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会(グループハウス尼崎内)
TEL&FAX06-6497-0266

平成25年 新年福祉のつどい

地域福祉の一層の推進に向けた懇談・交流を図ることを目的に、新年の賀詞交換の場として開催します。

日時 平成25年1月12日(土) 13:00~15:00

場所 ANAクラウンプラザホテル神戸

参加費 7,000円(一人あたり)

☎兵庫県社会福祉協議会 総務企画部
TEL078-242-4633

行事予定

11月1日~ 介護支援専門員専門研修課程II・更新研修A(後期)◆県立のじごく会館ほか

10日 介護福祉士受験セミナー公開模範試験◆社会福祉研修所

11日 福祉の就職説明会 AUTUMN in ひめじ◆姫路商工会議所

28日 近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会 奈良県セミナー◆ホテル日航奈良

30日 老人福祉施設中堅職員研修◆社会福祉研修所
第61回兵庫県社会福祉大会◆高砂市民会館

12月 4日 児童福祉施設・保育所中堅職員研修◆県福祉センター

11日 兵庫県経営協 施設経営トップセミナー◆ANAクラウンプラザホテル神戸

13日 栄養士・調理師研修◆県中央労働センター

「ストップ・ザ・無縁社会」全国キャンペーン協賛事業

第6回 全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご

「あきらめない!まちづくり 地域のチカラで、明日を元気に!~つなげる「まち活」しませんか~

「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」を境として、家族や近隣相互の「絆」が再認識され、助け合い、支え合いの輪が広がりました。全国の小地域で活動する実践者や専門職と共に、「新しい時代が救われる何か」をこのサミットで生み出し、地域社会に蔓延している「閉塞感」「無縁社会」を打ち破ることにつなげる場として、開催されます。全国からのご参加をお待ちしております。

日時 平成25年1月12日(土)10:30~17:45

場所 神戸国際展示場 コンベンションホール(全体会)

神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス(分科会) **参加費** 3,500円

内容 基調講演「つながりがひらく未来~新しい時代が救われる何かを~(仮題)」元内閣府参与 湯浅誠さん、シンポジウム「二つの大震災と地域の未来(仮題)」、分科会など

☎「第6回 全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご実行委員会」事務局
TEL078-271-1166 FAX078-271-5366

URL <http://www.with-kobe.or.jp/summit>

※このサミットは「ストップ・ザ・無縁社会」全国キャンペーンの協賛事業として開催されます。

福祉サミット 神戸 検索

お車のご購入・車検は
日本興亜損保の
「カーライフサポート」に
お任せ
ください!



兵庫県社会福祉協議会 会員の皆様へ

お車のご購入・車検をご検討の方は取扱代理店までご連絡ください!
「好条件」で「どんなメーカー」「新車・中古車問わず」ご紹介!
車検は「安心・充実・リーズナブル」な当社提携工場をご紹介!
 自動車保険などの集団扱損害保険も取り扱っています!
 保険もくるまも日本興亜損保にお任せください!

取扱代理店 (株)兵庫福祉保険サービス
 TEL078-735-0166 FAX078-735-1890
 受付時間:平日9:15~17:30(土日、祝日、12/30~1/4を除きます)